

# 市の家計簿

市民の皆さんからの税金などが昨年度どのように使われたか、令和6年度決算報告、令和6年度決算より算定した健全化判断比率、令和7年度上半期業務状況（企業会計）、職員の給与・定員状況をお知らせします。

## 令和6年度決算報告

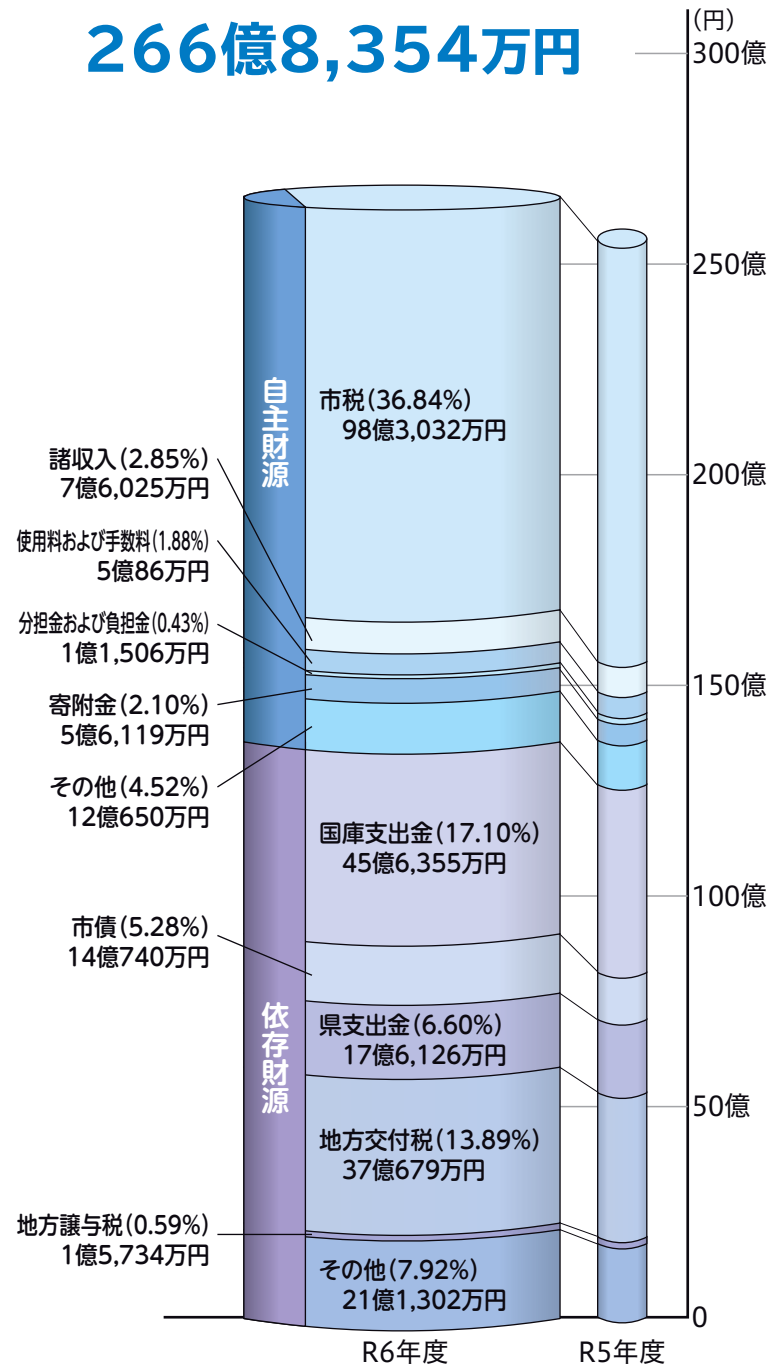
### 一般会計

#### 物価高騰・人口減少対策に重点

市税を主な財源として、学校、道路などの建設・整備をはじめ、福祉、消防、教育など市の行政運営の基本的な経費を計上した会計です。令和6年度決算については、市税は減少したものの市債や繰入金が増加し、給付金・定額減税一体支援事業などの物価高騰対策事業費や認定こども園整備事業費の増加により、歳入・歳出ともに前年度に比べ増加しています。令和6年度の歳入は266億8,354万円、歳出は264億9,328万円で、差し引き1億9,026万円となりますが、この中には翌年度へ繰り越した事業の財源8,715万円が含まれていることから、実質収支は1億3,111万円の黒字決算となっています。

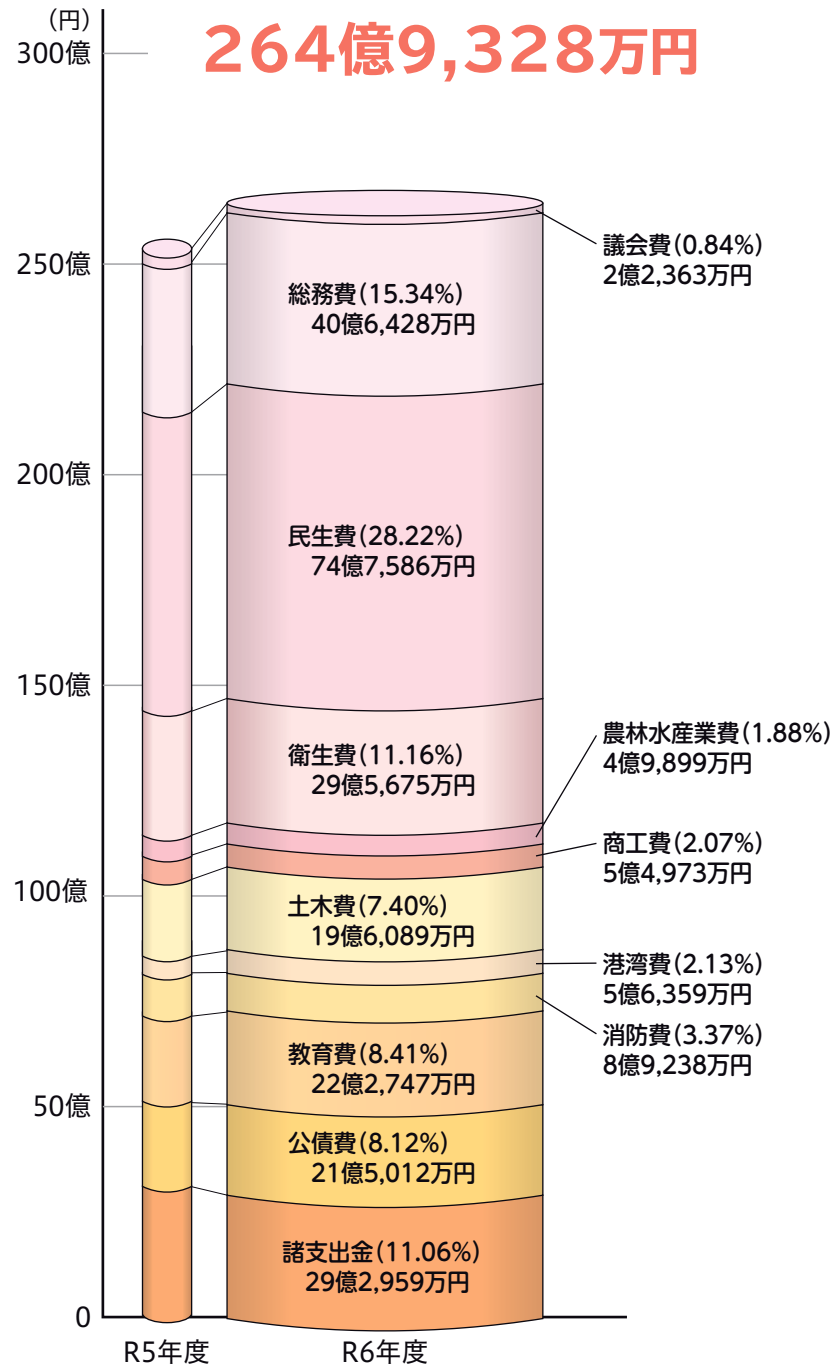
### 歳入

266億8,354万円



### 歳出

264億9,328万円



### 用語解説

#### 歳入

**自主財源** 市町村が自らの手で徴収または収納できる財源  
**市税** 市民税、固定資産税、軽自動車税など  
**使用料および手数料** 施設やサービスの提供で得るお金  
**分担金および負担金** 保育所や施設入居者の負担金など  
**寄附金** ふるさと返出応援寄附金など  
**その他** 財産収入、繰入金、繰越金  
**依存財源** 国や県から交付、割り当てられるものなど  
**市債** 道路や学校などを整備するために借り入れたお金  
**国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税** 国や県から交付されるお金  
**その他** 利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、交通安全対策特別交付金、地方特例交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、環境性能割交付金、法人事業税交付金

#### 歳出

**議会費** 議会の運営など  
**総務費** 総務、企画、財務、国際交流など  
**民生費** 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉など  
**衛生費** 検診、予防接種、環境保全、墓地整備など  
**農林水産業費** 農業、水産業の振興  
**商工費** 商工業、観光振興、消費者や労働者の対策など  
**土木費** 道路や公園、住宅の整備など  
**港湾費** 港湾や漁港施設などの建設、維持管理  
**消防費** 消火、救急活動、防災対策など  
**教育費** 学校、公民館、図書館などの教育施設の維持、整備などの施設整備などの借入金返済  
**公債費** 過年度支出、特別会計繰出金など  
**諸支出金** 過年度支出、特別会計繰出金など

令和6年度中に  
市民1人当たりに使われた金額  
(人口49,281人(令和7年4月1日現在)で算出)

537,596円↑  
(503,197円)

費目ごとに見てみると…

総務費  
82,471円↑  
(70,388円)



民生費  
151,699円↑  
(141,151円)



衛生費  
59,998円↑  
(58,906円)



土木費  
39,790円↑  
(36,865円)



教育費  
45,199円↑  
(40,709円)



公債費  
43,630円↑  
(39,745円)



その他(商工費、消防費、諸支出金など)  
114,809円↓  
(115,433円)

○内の矢印は令和5年度決算と比較した増減を表しています。  
( )内の数字は令和5年度決算

本市は、今後も行財政改革を積極的に推進し、限られた財源の中で「最少の経費で最大の効果」があげられるよう効率的な市政運営を進めていきます。



## Q 坂出市の財政状況は？

### 令和6年度決算により算定した健全化判断比率などについて

平成19年6月に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。この法律は、健全化判断比率などの財政指標を設け、その比率に応じて、早期（経営）健全化基準（イエローカード）と財政再生基準（レッドカード）が定められています。

平成19年度決算から健全化判断比率などを公表し、平成20年度決算からは、健全化判断比率などのうちいずれかが基準以上の場合は、財政健全化計画などの策定が義務付けられています。

本市の健全化判断比率と資金不足比率は、下表のとおり、全て基準を下回り、財政状況は「**健全段階**」です。今後とも、行財政改革実施計画を着実に実行し、効率的な財政運営を行ってまいります。

#### 健全化判断比率

本市は、全て基準を下回りました。

（単位：%）

健全化判断比率	令和6年度 決算	早期健全化 基準	財政再生 基準
<b>実質赤字比率</b> 一般会計等の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合 （財政運営の深刻度）	－ （▲0.71）	12.82	20.00
<b>連結実質赤字比率</b> 全会計の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合 （地方公共団体全体としての運営の深刻度）	－ （▲50.52）	17.82	30.00
<b>実質公債費比率</b> 一般会計等の実質的な借入金返済額の標準的な収入に対する割合 （資金繰りの危険度）	7.8	25.0	35.0
<b>将来負担比率</b> 一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高の標準的な収入に対する割合 （将来負担の程度）	74.1	350.0	

#### 資金不足比率

各公営企業の資金不足額の事業規模に対する割合（経営状況の深刻度）

（単位：%）

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
病院事業	－ （▲100.2）	20.0
下水道事業	－ （▲8.3）	
坂出港港湾整備事業	－ （▲570.7）	

→ 本市は、全特別会計で  
基準を下回りました。



※比率が算定されない場合は「－」で表示し、参考に黒字（資金剰余）の比率を「▲」で表示しています。

## Q 坂出市の預貯金と借入金はどのくらい？

### 令和6年度末現在の基金と市債

#### ● 預貯金に当たる「基金」残高

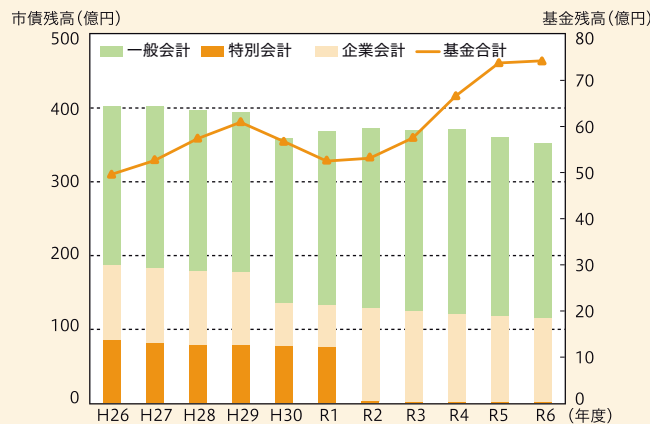
75億1,243万円

#### ● 借入金に当たる「市債」残高

353億8,184万円

（一般会計236億6,824万円、特別会計8,601万円、企業会計116億2,759万円）

市民1人当たり  
預貯金 15万2,441円  
借入金 71万7,961円



## 特別会計

特定の歳入をもって特定の事業を行う場合など、他の会計と区分して経理する必要がある場合に、法律や条例に基づいて設置しているものです。令和6年度の8の特別会計の決算状況は、次のとおりです。

	会 計 名	歳 入	歳 出
1	国民健康保険	56億5,414万円	55億1,852万円
2	与島診療所	564万円	564万円
3	港湾整備事業	1億8,680万円	1,221万円
4	王越診療所	908万円	908万円
5	坂出駅北口地下駐車場事業	4,415万円	2,550万円
6	介護保険	61億4,162万円	60億8,081万円
7	介護保険介護予防支援	6,696万円	6,696万円
8	後期高齢者医療	11億8,721万円	11億8,713万円

## 企業会計

民間の会社のように、その事業の収入で支出をまかなう独立採算事業で、本市では下水道事業と病院事業があります。

### 下水道事業

令和6年度では、旭町一・二丁目などで下水道布設工事を行い、処理区域面積の拡大を図りました。

令和6年度末までの業務実績は、処理区域面積354.39ha（前年度比1.45％増）、水洗化人口11,809人（前年度比1.00％増）、有収水量2,065,080㎥（前年度比0.02％増）となりました。

### 病院事業

令和6年度は、中讃圏域の血液内科の拠点病院となるよう、5階南病棟の無菌治療室を、既存の個室2床から、個室4床と4人部屋2部屋（計10床）の改築工事を行い、患者受け入れ体制を強化しました。

また、令和6年分の救急車両受け入れ件数が初めて2,000件を超えるなど、救急搬送困難事例の減少にも努めました。

#### 貸借対照表

（令和7年3月31日）

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	143億6,856万円	固定負債	63億6,452万円
流動資産	2億7,907万円	流動負債	7億1,793万円
		繰延収益	56億5,640万円
		資本金	17億3,570万円
		資本剰余金	1億7,308万円
合 計	146億4,763万円	合 計	146億4,763万円

#### 損益計算書

（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

費用の部		収益の部	
営業費用	9億1,442万円	営業収益	5億147万円
営業外費用	8,166万円	営業外収益	4億9,474万円
特別損失	13万円	特別利益	0万円
当年度純利益	0万円		
合 計	9億9,621万円	合 計	9億9,621万円

延べ有収水量 2,065,080㎥

#### 貸借対照表

（令和7年3月31日）

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	56億7,033万円	固定負債	58億4,606万円
流動資産	73億5,367万円	流動負債	9億2,393万円
		繰延収益	9億7,282万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	35億7,801万円
		評価差額等	△3億1,666万円
合 計	130億2,400万円	合 計	130億2,400万円

#### 損益計算書

（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

費用の部		収益の部	
医業費用	70億183万円	医業収益	67億5,547万円
医業外費用	3億9,670万円	医業外収益	5億3,809万円
特別損失	382万円	特別利益	1億2,481万円
当年度純利益	1,602万円		
合 計	74億1,837万円	合 計	74億1,837万円

延べ患者数 入院58,943人 外来137,006人

### 令和7年度上半期業務状況

#### 貸借対照表

（令和7年9月30日）

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	141億3,089万円	固定負債	63億6,452万円
流動資産	12億4,160万円	流動負債	15億6,003万円
		繰延収益	55億3,916万円
		資本金	17億3,570万円
		資本剰余金	1億7,308万円
合 計	153億7,249万円	合 計	153億7,249万円

#### 損益計算書

（令和7年4月1日～9月30日）

費用の部		収益の部	
営業費用	4億2,317万円	営業収益	2億4,183万円
営業外費用	3,928万円	営業外収益	2億2,062万円
特別損失	0万円	特別利益	0万円
当年度純利益	0万円		
合 計	4億6,245万円	合 計	4億6,245万円

#### 貸借対照表

（令和7年9月30日）

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	55億1,835万円	固定負債	58億4,561万円
流動資産	71億497万円	流動負債	8億1,191万円
		繰延収益	8億8,943万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	34億1,986万円
		評価差額等	△3億6,333万円
合 計	126億2,332万円	合 計	126億2,332万円

#### 損益計算書

（令和7年4月1日～9月30日）

費用の部		収益の部	
医業費用	35億8,868万円	医業収益	35億4,408万円
医業外費用	2億462万円	医業外収益	1億307万円
特別損失	1,281万円	特別利益	81万円
当年度純損失	1億5,815万円		
合 計	38億611万円	合 計	38億611万円